

第1回委員会における 意見と対応

(1) 意見と対応

No	内 容	対 応
1	例えば、神戸と豊岡では、30年後の将来像は全く異なる可能性がある。 <u>道路を使った生活のイメージを共有できると議論しやすい。</u>	各地域の将来ビジョンをまとめたものを提示。(参考資料1)
2	地域毎の将来像実現のために、道路に期待されていることが何か、 <u>地域ビジョンでの検討と繋げて考えていく必要がある。</u>	地域ビジョン、地域創生戦略地域版等に示される地域のビジョン・目標を、地域別資料に提示。(資料2-3)
3	道路の投資には、①生活に必ず必要な「生活基盤型」、②渋滞対策などの「問題解決型」、③「将来投資型」の3種類がある。これらは分けて考えるべき。	(1)今後順次整備を進めて行く道路と(2)将来の社会情勢の変化に対応し検討を進める道路に分類。さらに(1)を「生活基盤型」、「問題解決型」に分類。(資料2-2)
4	逆走等の問題もあるが、正しく利用されれば、 <u>基幹道路は一般道路より安全であり、基幹道路の持つ役割の一つである。</u>	論点「基幹道路が担う役割」に「④交通安全の向上」として追記。(資料2-2)
5	人口が減少しても、利便性の高いところに再配分されて混雑は減らないという検討や、ドライバーの高齢化等により、以前より道路の処理能力が低下しているという考えもあるため、 <u>瀬戸内側の基幹道路の渋滞は重点的に考える必要がある。</u>	地域別資料に旅行速度等を提示(資料2-3) 地域別資料(神戸・阪神、播磨)の政策目標に反映。(資料2-3)
6	<u>長大橋梁等はそれ自体が観光資源になりうる。道路本来の目的ではないかもしれないが、今後はこれまで以上に留意すべき。</u>	あり方素案に反映予定。
7	<u>災害時に大事なのはネットワークとして繋がっていること。また、物資輸送として道路本体も重要だが、救援部隊の集結する拠点としてSA、PAの活用も重要である。</u>	地域別資料に基幹道路のSA、PAを提示。(資料2-3)
8	道路を賢く使うという意味では、できるだけ早く沿線に工場等が立地することを考えないといけない。 <u>道路整備とアピールのタイミングが重要である。</u>	あり方素案に反映予定。
9	<u>財源が厳しい中では、生活に必要な道路の更新は公費、問題解決型の道路の新設等は、場合によっては有料ということも、将来的には考えていくべき。</u>	有料道路事業に関する国の検討資料を提示。(参考資料3) 論点「財源確保の方策」に反映。(資料2-2)
10	ネットワークがつながることで、発展する地域と衰退する地域が出てくる。 <u>どこかにつながれば、通過されるだけの地域が出てくることに注意が必要である。</u>	あり方素案に反映予定。